

## とうきょうのフクロウ類は今・3

### 意外に知られていない都会のフクロウ(2)

フクロウが2羽居ることは確認しましたが、雌雄の判別は？と言われると判らないことだらけ。しかし、ある出来事からこの問題は解決しました。仲間数人で樹上のフクロウを観察していた時、1羽のフクロウが頭部をクネクネさせ始めたのです。ひょっとするとオスの「ディスプレイ(求愛行動)」かも？と思い静止画・動画にて撮影しました。【写真1】「近くにメスがいるはず！」と樹上を探すと僅かに枝の間からオスを見つめているメスのフクロウが見えました。【写真2】また、とまる場所を移動したオスが鳴く場面に遭遇して、その鳴く姿を確認・撮影したことからこの個体がオスであることを再確認できたのです。【写真3】



写真1 頭部をクネクネさせる  
オスの求愛行動



写真2 片目をつぶって  
オスを見つめるメス



写真3 喉袋を膨らませて鳴くオス

オス・メスを主に顔で判別ができるようになった結果、以前撮影した写真についても雌雄の判別をすることにより、その時々行動と連動させて記録ができることから雌雄ごとの行動も少しずつ分かってきました。下の写真は雌雄判別の基準とした写真です。【写真4】

樹木の葉が茂る夏の時期、フクロウは昼間の活動を殆どしないようです。また、見つけようにも木の葉が邪魔になり全く姿を掴めません。しかし、オスの鳴く声は聞こえるので園内に居ることは確実です。そして例年9月中旬になると何故か姿を見せるようになります。2018年9月19日に初の正面ツーショット撮影に成功した時は、まさにこのタイミングでした。【写真5】

〈続く〉



写真5 大好きなスタジイ樹上で初の  
正面ツーショット

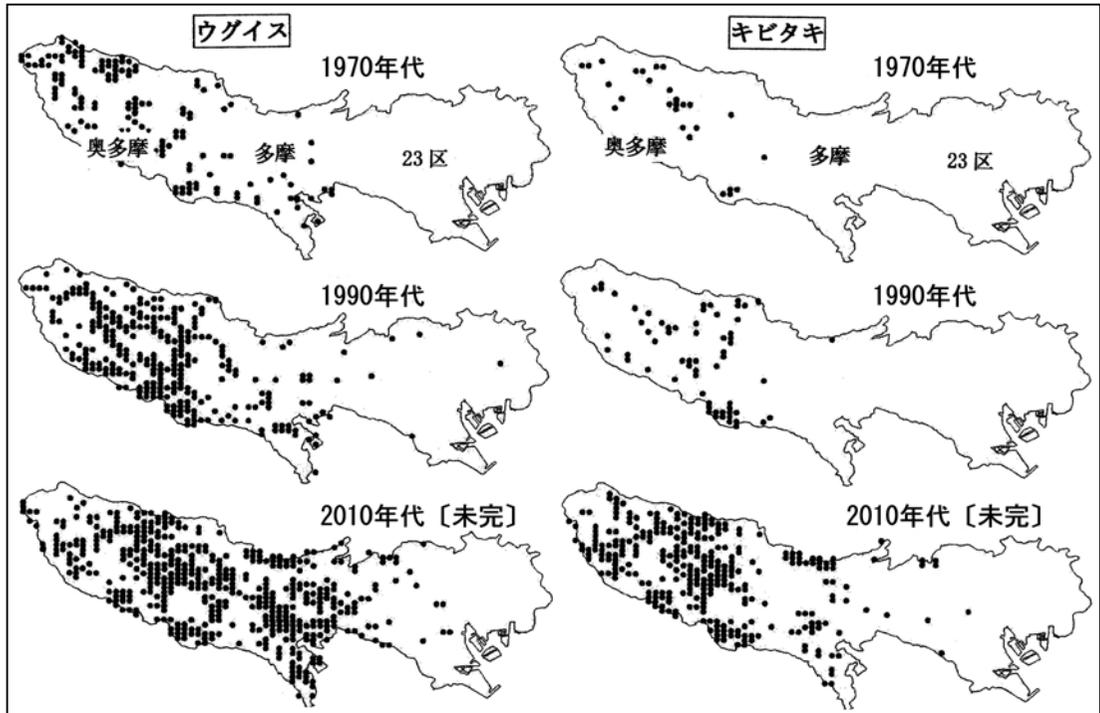


写真4 左のオスは顔が全体的に黒く縁取りが曖昧  
右のメスは顔が全体的に白くハートの縁取りが顕著

※希少種保護のため、場所・執筆者は伏せています

## 野鳥は自然環境の“見張り番”・・・身近な場所で観察を

今夏は、東京都区内のキビタキ・ウグイス・インヒヨドリ繁殖の動きを追っていますが、その状況が可視化できるようになりました。東京では1970年代から20年ごとに繁殖期の調査が行われていて、3回目の2010年代の状況が見えてきましたので、ここ50年での変化を知ることができます。【図】



図・東京都におけるウグイスとキビタキの繁殖分布の変遷 [●：繁殖確認または繁殖の可能性あり]

データ提供：(NPO)バードリサーチ

20年ごとの3つの分布地図で、山で繁殖していたウグイス・キビタキが年代を追うごとに、平地や市街地の緑地でも繁殖するようになっていくことがよくわかると思います。なぜこんな変化が起きているのか、今のところはきちんとした説明ができていませんが“何かがあるはず”です。かつて炭鉱でカナリヤがガス探知に使われたと同じように、“目に見えない環境変化を感知する”という意味でも、家や職場などの身近な場所での野鳥の状況を日ごろ見ておくことは、野鳥の会員としての重要な社会貢献のひとつだと思います。

### バードリサーチからのお願い「1kmメッシュ調査」にご協力ください

2021年は「東京都鳥類繁殖分布調査」(※)最後の現地調査の年です。今回の調査では、面的な鳥の密度分布の把握を目指して、できるだけ多くの「1kmメッシュ」で現地調査をしたいと思っています。各メッシュでは約1kmのコースを2回調査します。ご自宅の近くでしたら、出勤前にもできる調査です。

調査がまだできていないメッシュは、以下のページから見るができますので、ご自宅のそばに未調査メッシュがありましたらぜひ登録ください。ホームページから調査の登録をいただけます。ご不明な場合はバードリサーチ [bbs@bird-research.jp](mailto:bbs@bird-research.jp) にメールをいただけたら詳細をご案内いたします。

※ <https://www.bird-atlas.jp/tokyo/map.html>